

【坂下中学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年10月1日（金）午後6時30分～午後7時25分

2 開催場所

坂下公民館 ホール

3 参加者数 11名

【事務局】

春日井市教育委員会	部長	森本 邦博
〃	学校教育課 課長	前原 敦
〃	〃 主幹	梶田 傑
〃	〃 主幹	梶田 英男
〃	〃 課長補佐	深見 健司
〃	〃 主査	安田 和志
〃	〃 主事	杉山 太一

4 議題

坂下中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（坂下中学校）

会議録（要点筆記）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 坂下中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年2月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の人間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに1学年に2学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるよう検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の5つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和7年4月から5月にかけて、対象校区の小中学校17校のPTA役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後5月から6月にかけて児童生徒やその保護者の皆様を対象に、6月から7月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料1ページ）

- ・昭和41年度から令和19年度までの、坂下中学校の生徒数の推移は、昭和61年度の1,045人をピークに、令和19年度では82.4%減少の184人と推計される。

- ・坂下中学校は、今年度、生徒数 348 人、10 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、令和 11 年度に一時的に「適正規模」になると推定されるが、令和 13 年度、19 年度、22 年度と、生徒数及び学級数は減少し、学校規模としては「やや小規模」で推移すると推定される。
- ・坂下小学校は、今年度、児童数 422 人、14 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は児童数、学級数ともに減少し、令和 12 年度からクラス替えができない学年のある「小規模」に、令和 22 年度では全学年でクラス替えができない「過小規模」であると推定される。
- ・西尾小学校は、今年度、児童数 57 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。児童数は減少し、令和 9 年度以降は、2 つ以上の学年を 1 つの学級として編成し、1 人の教師が同時に複数学年の授業を担当する「複式学級」が編成されると推定される。
- ・神屋小学校は、今年度、児童数 155 人、7 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は児童数、学級数ともに減少し、令和 10 年度以降は「過小規模」となり、児童数はその後も減少すると推計される。

<アンケート結果について> (資料 2 ~ 5 ページ)

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、坂下中学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 69.6% となっている。地域の方のアンケート結果は、小学校単位で取りまとめを行っていることから、中学校区内の小学校を集計した「全体」を見ると 78.4% の方が賛成と回答している。
「反対」の方は、保護者で 4.4%、地域の方で 9.8% である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「地域と学校の関係が希薄になるから」と多くの方が心配している。
- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、坂下中学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」や「学校行事や部活動が充実するから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒とともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。坂下中学校では、保護者の方の 99.3%、生徒の 99.0% が複数学級を

望ましいと考えている。坂下中学校区では、中学校、小学校ともに複数学級を希望する割合が高くなっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や「体育大会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。

地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」をとても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

＜本市の考え方について＞（資料6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、坂下中学校は、基本的に「やや小規模」で推移すると推定される。また、小学校においては、令和22年度では、坂下小学校と神屋小学校は全学年で学級数が1学級の「過小規模」であり、西尾小学校においては、複式学級となることが推定される。

- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。

- ・「地域の特性」として、坂下中学校区は、隣接する中学校区と地形的に隔たりがある。また、春日井市に合併前の旧坂下町地区として、地域のつながりがある。

- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、坂下中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 坂下中学校は、「やや小規模」で推移すると推定されることから、その推移を見守る。

- 2 小学校は、地域の特性を考慮し、坂下中学校区の中だけで適正規模等の検討を進めていく。
- 3 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する。

3 意見交換

【質問 1】

統合に賛成で、できれば自分の地区に学校をつくるってほしいと考えている方は多いと思う。3つの小学校を統合して、新しい学校はどこにつくるのか。

【事務局】

坂下中学校区の中には中学校を含めると4つの学校がありますが、新しい学校をつくることになった場合は、基本的には既存の学校の土地を活用することになると考えています。坂下中に小中一貫校を設置することもあると考えています。

どこの土地を活用するかは、それぞれメリット、デメリットがありますので、情報提供をしっかりと行い、皆さまと議論していきたいと考えています。最終的には市が決定する形になりますが、私たちが気付かないメリット、デメリットなど、様々な意見をいただければと考えています。

【質問 2】

今後のスケジュールを教えてほしい。

【事務局】

具体的なスケジュールは決まっていません。仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。また、それぞれ学校の運営の方法には特色があると思いますので、その調整にも時間がかかると想定されます。皆さまと協議しながら進めていきたいと考えています。

【質問 3】

坂下中も他の学校と統合する可能性があるのか。

【事務局】

坂下中学校区も他の中学校区と接してはいますが、隣接する中学校区とは地形的な隔たりがあることから、適正規模等の取組は坂下中学校区の中だけで実施したいと考えています。

【質問4】

坂下中は残って、小学校3校が統合するイメージか。

【事務局】

坂下中学校の推計は「やや小規模」で推移すると考えられますので、その推移を見守ることとします。

【質問5】

小学校3校を見ると、神屋小と西尾小の児童数が少ないと感じる。統合するのであれば、段階的に神屋小と西尾小を統合してから坂下小を統合するのか、それとも一度に3校を統合で考えているのか。

【事務局】

統合する場合は、3校を一度に実施したいと考えています。

以前の藤山台小学校の統合は段階的な統合を行いましたが、一度に統合してほしかったとの意見があったことや、先に統合した2校と後に統合する学校との調整に苦労したとの話もありました。そのため、一度に実施するのが望ましいと考えています。

【質問6】

バスによる通学について、市内でバス通学を実施しているところはあるのか。

【事務局】

市内では、通学にバスを利用している事例はありません。

近隣の市町村では、瀬戸市の学校統合した地区で路線バスを利用した通学を実施しており、小牧市では学校の統合を進めている篠岡地区で、スクールバスの導入を検討していると聞いています。

【質問7】

1クラスの人数が決まっているので、統合してもクラス数が増えない場合もあるのか。

【事務局】

その場合もあります。現在、1クラスの子どもの数は、小学生と中学1年生は35人学級、中学2年生、3年生は40人学級となっています。現在、国において、1クラスの人数を見直す動きがあるため、その動向を注視しています。また、県では、愛知県議会の代表質問で、中学2年生、3年生の1クラス35人学級について、国より1年前倒しして進めいくと回答しています。

【質問8】

今後、検討が進んだ後に、協議会で議論していくと聞いた。中学校は統合する予定はないとのことだが、中学校含めた4校の関係者と検討していくのか。

【事務局】

各学校の意見交換会でいただいた意見を踏まえて、次の段階として、坂下中学校区全体で2回目の意見交換会を実施したいと考えています。その後は、坂下中学校を含めた4校の保護者、地域の代表の方や学校関係者などで構成する組織を立ちあげて検討を考えています。

【質問9】

小学校の体育館は避難所に指定されているが、統合されるとどうなるのか。学校跡地はどうなるのか。

今は保護者が学校に送迎しているケースが多く見られるので、駐車スペースも考えてほしい。

また、検討にあたっては、未就学児の親の意見もしっかり聞いてほしい。

【事務局】

子どもたちの教育環境の向上を第一に考えて取り組む必要があると考えており、跡地に関することについては、別で検討を進めていきたいと考えています。

送迎スペースの確保については、バスの導入など通学手段を検討していく中で、保護者や学校の先生にも意見をいただきながら検討していきます。

また、未就学児の保護者については、アンケート実施の際に保育園や幼稚園に協力いただき、意見を聞いてきました。今後も、園関係者や未就学児の保護者からも多くの意見を聞いていきたいと考えています。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・坂下中学校区の各小中学校で開催した意見交換会でいただいた意見などを取りまとめた上で、次は坂下中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、坂下中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 7 時 25 分 閉会